

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大阪府立北淀高等学校  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )  
 住所 〒 533-0013  
大阪市東淀川区豊里 2-11-35  
 E-mail : asp@kitayodo.osaka-c.ed.jp  
 Website : http://www.osaka-c.ed.jp/kitayodo/  
 児童生徒数：男子 331 名 女子 416 名 合計 747 名  
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### ○留学生との交流から学ぶ(第2学年)

1. 実施期間: 2014年10月27日(事前学習・準備)、11月6日

2. 実施形態: LHR

3. 目的・目標

- ①留学生との出会い・交流を通して、文化の異なる人々と直に触れ合うことの喜びを体験し、また異文化への共感的理解を深める。
- ②世界の事情を学び、国際社会に生きる自己を自覚する。
- ③留学生との学びあいを通して、自己と他者のつながりや、社会の中での自分の価値とあり方について考える。
- ④交流の企画、準備等を通して、能動的、積極的な態度を身につける。また、本学習を通して、将来の目標を前向きに考えるよう働きかける。

4. 他機関等との連携

大阪学院大学、成蹊大学、大阪経済大学

5. 概要

(1) 対象: 第2学年(7クラス・約230名)

(2) 学習過程と内容

①事前準備:

事前学習で、当日のプログラムの確認、備を行った。まず、1クラスを一班6名程度の5~6グループに分けた。自己紹介の時に渡す名刺を作り、当日使用するカルタ、ウェルカムポスターなどを作り、留学生の人に聞きたい質問を考えた。それ以外にも、写真入りの留学生紹介ポスターを作成して各クラスに掲示し、交流に向けての雰囲気作りや生徒の意識の向上を図った。

②留学生との交流

1時間目は、名刺交換をしながら自己紹介をした後、カルタ取りのゲームを行った。最初に、事前に用意していたカルタの絵に合わせて、読み札と生徒のメモ用紙に留学生の母国語を入れた。覚える時間を取った後カルタ取りのゲームをした。言葉を教えてもらったりゲームをしたりする流れの中で、自然に打ち解けることができたと思う。

2時間目は座談会形式で、生徒と留学生の方がお互いの文化や日常生活について話し合った。生徒からは事前に準備していた質問以外の質問も次々と飛び出し、逆に留学生の方からも質問があったりした。民族衣装を試着させてもらったり、用意して下さった写真等で各国の文化を紹介してもらったりなど、和やかな雰囲気の中で交流が行われた。

(3) 成果及び評価

日頃、海外の人と交流する機会の少ない生徒たちがどういう反応を示すか心配していたが、予想以上に交流活動を楽しんでいた。交流が始まると、準備した以外にもいろいろ積極的に質問をし、会話がはずんでいた。これは、参加していただいた留学生の方々が大変友好的に温かく本校の生徒たちに接して下さったところが大きい。また、年齢の比較的近い留学生の方々と日本語で会話ができることが生徒たちにとっては新鮮で、緊張感なく交流できたようだ。

生徒の感想について、代表的なものを以下に挙げる。

- ・最初はあんまりって思ったけど、話すうちにおもしろくて楽しかった。
- ・もっといろんな国の人と関わりたいと思いました。
- ・留学生の交流会でいろんな国の人と話をする楽しさがわかって良かった。
- ・まったく違う文化が知れて勉強になった。
- ・食べ物の価値観が違った。
- ・いろんな話ができたらフレンドリーだし楽しかった。

## ○ESD活動について(第2学年)

1. 実施期間：2015年1月8日、15日

2. 実施形態：総合的な学習の時間

3. 目的・目標

- ・ユネスコの活動を、プリントを通して学び、理解する。
- ・北淀高校がユネスコスクールであり、どんな活動をしているかを理解させる。
- ・ESD(持続発展教育)とはどのような活動なのかを理解させる。

4. 概要

(1) 対象：第2学年(7クラス・約230人)

(2) 学習過程と内容

①1月8日

1月8日にプリントやパネルを使用しながら学習をした。

[ユネスコスクールに関するプリント学習]

ユネスコは諸国民の教育、科学、文化の交流を通じて国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関である。1946年に創設され、加盟国は193カ国(2007年現在)で、日本は1951年に加盟した。またユネスコスクールはユネスコの理想を実現する学校で国際理解教育の試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足した。日本では2011年現在、308校の幼稚園、小・中・高等学校および教員養成学校が参加している。北淀高校は大阪府立高校として1番はじめにユネスコスクールに加盟した。ESDは、私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決するための学びである。北淀高校でも1年次の人権講演会や海外協力隊OBによる講演、2年次の留学生交流などで取り組んできている。

[パネルを見ての学習]

次にクラス内で、「駅前の放置自転車」、「工場排気による大気汚染」のパネル写真を用い、生徒が感じたことや意見を聞いた。

②1月15日

前半に振り返りのプリントを記入させた。

ここで生徒の意見の一部を紹介する。

1) 駅前の放置自転車

- ・無意識で誰かの困ることをしていたんだということに気付いた。
- ・周りの人たちのことを思いやる気持ち。
- ・一人ひとりが自分にできることをしたらいいと思った。

2) 工場排気による大気汚染

- ・中国の問題でも元をたどったら日本も関係している。
- ・どうしたらみんな幸せに暮らせるのだろう。
- ・なぜ中国の大気汚染を、どうにかしようと思わないのか。
- ・他の国だったらどんな工夫をしているか。
- ・自分がこうして、授業を受けている間にも、他の国や地域でいろいろな事件や環境問題が起きていること。

(3) 成果および評価

今年度はグループ分けをおこなわなかった。担任からの説明のみで行ったため、生徒の参加意識はやや低かったように思われる。しかし、パネルを見せると、教員からの説明に対して質問をする生徒もおり、そこから内容が展開するクラスもあった。問題は、1時間の授業の中で、ユネスコおよびユネスコ・スクールの説明と、パネルを見ての学習を行うとなると、時間が足りないということだった。ESD学習は、対話を通じて内容が展開することで学びにつながる面がある。また、内容的に難しい面がある。かつてのESD学習は、長い時間をとって実施していたと聞いているが、それはそうした面があるからだと思われる。今回、修学旅行直前の日程であったため、実施時間が十分に確保できず、また、担任も準備不足で実施せざるを得ない状況であった。今年度に関して言えば、生徒の関心を引き出すチャンスはあったし、関心をもった生徒もいたが、それに十分に答えることができなかつたと言える。

## ○青年海外協力隊体験者による講演（第1学年）

1. 実施期間：2015年1月26日（6限 事前学習）、2015年1月29日（5・6限 講演会）
2. 実施形態：LHR
3. 目的・目標

広く世界に興味・関心を持ち、自分たちとは異なった生活や文化があることを知る。

4. 他機関等との連携

JICA関西、公益社団法人青年海外協力協会近畿支部

5. 概要

(1) 対象：第1学年（7クラス・約270名）

(2) 学習過程と内容

①事前学習：ビデオ（「JICA君の国際教育って知ってる？」「青年海外協力隊紹介ビデオ」）とプリントで、国際協力や青年海外協力隊についての学習をした。

また、海外青年協力隊員の活動をまとめたビデオを鑑賞し、次回の講演に向けて具体的なイメージを持つようにした。

②「青年海外協力隊帰国隊員（7名）による講演」

自分たちが行ったことのない外国の体験談に、生徒たちは熱心に耳を傾けていた。講師の方々は、民族衣装を身にまとったりパワーポイントなどの視聴覚教材を用いて、上手に生徒を引きつけながら講演されていた。また、その国の生活についてのすごろくを用意してくれたり、その国の布でしおり作りをするなど、さまざまな工夫をしてくださったので、普段長時間の話聞くのが苦手な生徒も2時間集中して参加していた。

(3) 成果及び評価

本講演は普段あまり社会に関心を向ける習慣のない生徒達が、自分がその一員であることを意識し、より積極的な姿勢を持つ貴重な機会となった。また、講師の方の熱意あふれる話を聞くことで、外国に関心のなかった生徒が世界に目を向ける大きなきっかけとなった。講演前4回にわたり、世界の貧困や識字について学習したことで、生徒の理解はより深まったようだ。以下、生徒の感想から代表的なものを挙げる。

- ・自分が知らないところで苦しい思いをしている人はたくさんいるんだと思った。
- ・青年海外協力隊に参加したいと思った。
- ・初めて知ったことばかりで、いろんなことが知れて面白かった。
- ・日本で学んだことを外国の人に伝えることによって外国の人ともっと助け合えたらと思った。
- ・家族と離れて暮らすのは寂しいと思ったけど、人のために他国に行ける勇気はすごいと思った。
- ・最初の印象では、前から勉強しているような貧しくて苦労しているってイメージがあったけど、話を聞いているうちに「セネガルって思ってた以上にいい所」って印象が変わった。

## ○大阪ユネスコスクールネットワークの活動について(ユネスコ部)

1. ユネスコスクール世界大会（高校生フォーラム）

日本が提唱した”ESDのための10年”の締めくくりにあたる今年、岡山と愛知で国際会議が開かれた。そのひとつとして、11月5日から3日間、岡山市で開催された高校生フォーラムは、約500名の大阪と岡山の高校生が運営、海外31カ国からの高校生124名とともに、ESDをテーマにプレゼンテーションとディスカッションを行い、最終日には共同宣言を採択した。大阪ユネスコスクールネットワークは、3年計画でこの事業をプランニングし、運営に当たった。本校もその構成校として参画した。

本校生は、装飾班チーフ、カナダチームのおもてなし係のリーダー、チュニジアチームのおもてなし係として、またユネスコ部OBも、大学生ボランティアとして参加した。このフォーラムに向けては、下記のとおり毎月セミナーがあり、大阪の高校生は早朝6時半に集合して片道約4時間の道のりを5台のバスで通い準備をした。他校の生徒とともに活動し、また当日は言語も文化も違う海外の同年代の高校生と交流する中で、生徒たちは普段できない貴重な経験をした。これからの未来を担う若者として、この経験がいろいろな

かたちで生かされていくことを願っている。

第1回セミナー岡山 5/11(日) 岡山学芸館高校

第2回セミナー岡山 6/15(日) 岡山大学

第3回セミナー大阪 7/20(日) 大阪府立大学 Uホールほか

第4回セミナー岡山 8/10(日)～11(月)ホテルグランヴィア岡山

第5回セミナー岡山 10/5(日)ホテルグランヴィア岡山

11/6(木)～7(金)「ユネスコスクール世界大会」開催(11/5オリエンテーション)

「ユネスコ世界大会報告会」 3/15(日)

## 2. 教員の活動

\* ネットワークのコーディネーター会議への参加。

\* 上記「ユネスコスクール世界大会(高校生フォーラム)」および「準備セミナー」の企画・準備・運営。

\* ユネスコスクール全国大会、研修会等への参加・発表・報告。

## ○他の本校の活動について

① 近隣の公園の清掃活動

② 特別支援学校との交流活動

③ 東日本大震災の支援チャリティーへの参加

④ 従来から実施している、人権・平和学習、地域を知る活動等も、ESDの学習領域だと考えられる。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他( )